

昌子の広場

第94報

小林昌子議会報告

和泉市無所属市民派議員

小林昌子

和泉市緑ヶ丘2-13-10

自宅 Tel(Fax) 0725-54-2626

事務所 Tel(Fax)0725-53-4451

Email masakokob@ybb.ne.jp

http://masako-hiroba.info/

ホームページもご覧下さい

yahoo の小林昌子で検索出来ます



新市長誕生 田中康夫新党日本代表橋尾川ダムを視察

目次

・新市長誕生	P1,2
・田中康夫新党日本代表橋尾川ダムを視察	P3,4
・昌子の日記	P4

辻宏康新市長誕生！市民からの変革の期待を受けて誕生

何故敗れたのか現職

平成21年6月14日新市長が誕生しました。辻宏康氏が現職の井坂善行氏を大差で破って見事新市長となりました。まずはお祝いを申し上げます。

集計時間	候補者/得票数(票)			得票数(票)	開票率(%)
	辻ひろみち	いのだ順三	井坂よしゆき		
22:00	2,000	2,000	2,000	6,000	9.35
22:30	15,000	8,000	14,000	37,000	57.69
23:00	20,000	8,000	18,000	46,000	71.72
確定	31,310	8,930	23,292	64,137	100

井坂氏は現職の強みに加えて、時流に乗る民主党と高い組織力の公明党の推薦を受け盤石の体制で圧倒的に有利と見なされていましたが、このような意外な(?)結果となりました。

大きな失政もなく、不祥事の後を受け市政の信頼を回復すべく地道に改革を続け2期目に入ろうとしていたときにこのような結果を誰が想像できたでしょうか。入札制度改革や人件費の削減等による市の借金の削減、男女共同参画条例の制定やまもなく提案される予定の自治基本条例の制定など行政のプロから見ればその成果は大変大きいものがあります。しかしこのような改革は市民にとって必ずしも判りやすいものではありません。寧ろネガティブキャンペーンが大きく耳目を引く結果となったのでしょうか。

しかし時代が大きく変わろうとしている時にあって、堅実な行政手腕より、何かが変わることに市民は期待したのではないのでしょうか。より強い変革を新しい市長のリーダーシップで実現して欲しいと市民は望まれたのでしょうか。

選挙のやり方について時流を読み違えた点も見逃せな

いと思います。政党の支援を受け、事務所開きや出陣式には大勢の市民が駆けつけてはいましたが、上滑りの懸念はなかったのでしょうか。動員選挙は最早時代遅れとなり、直接市民に語り合い発信する姿勢が今求められているのではないのでしょうか。今回の選挙公報にそれが端的に表れたと思います。井坂氏の公報は市民の情に訴える事に主眼がおかれたように見えたのですが、辻氏のそれは明確な主張が現れていました。



「激動の時代にあって、旧態依然としたシガラミ市政から脱却し、市民が望む施策を速やかにかつ強力に推進する体制が急務であり、市が直面する課題に取り組む情熱が必要」とし、具体的に

- 市長退職金と市長公用車の廃止
- 市民税と上下水道料金の10%削減
- 敬老祝い金の復活
- 子どもにツケをまわさない行財政改革の断行
- 市立病院の再生と存続
- 地元産業の活性化による雇用創出

これが新市長の選挙公約です。これからはこの公約が忠実に実行されるか否かが議会でチェックした必要なら協力していきたいと思っています。

今後公約の実現をチェック

この公約を見ると挑戦者の心意気からかややバラマキともとれなくないものがあります。それは市民税と上

下水道の10%削減、敬老祝い金の復活です。市民税の削減を公約に当選した首長が最近では名古屋市と半田市にみられます。対戦相手にとっては決定的なパンチとなったのではないのでしょうか。

市民税と上下水道の10%削減

市民税と上下水道を合わせて大凡150億円ですので、10%削減には15億円の財源が必要で、更に地方交付税や起債に影響する可能性もあります。100年に一度と言われる経済危機の影響を受けた税収の低下など厳しい財政事情の中でこの財源の確保は容易なことではありません。新聞報道では4年かけてじっくり取り組むとの事ですが公約ですので必ず達成されねばなりません。敬老祝い金は現在節目、節目の支給となっていますが、それを元に戻すには更に7千万円以上の財源が必要です。

市長退職金と市長公用車の廃止は、直ぐにも実行して貰いたいものです。しかし住民税等の削減や退職金の廃止は条例の改正が必要です。今後議会で財源の確保を含め、他にしわ寄せがないかどうか十分な議論が必要と考えています。

市立病院問題

新市長は市立病院を再生し存続するとの公約です。銚子市、松原市の市民病院の閉鎖などに見られるように公立病院の経営は今極めて厳しい状況にあります。

氏のまちづくりレポート道53号に

病院間のネットワーク化、公立病院の統廃合、経営形態の見直しなど、自助努力の改革から次の段階へ議論を進めなければ手遅れになります。そのためには、まず和泉市立病院が市民にとって必要なのかという大きな問題を俎上に乗せ、地域医療に対する市の果たす役割を、市民、行政、直接医療に関わる職員が膝詰めで、三位一体の議論を尽くさなければなりません。

と言っておられます。

市立病院の存続は市民のどなたも異論はないと思いますが、膨大な赤字の垂れ流しでは市の本体が潰れかねません。その点再生存続について氏がどのような考えをお持ちなのか、これから十分議論したいと思っています。

府中駅前開発は

今回の選挙で辻氏は府中駅前開発に明確な意思表示がありません。既に一部竣工式が行われている中で、この舵取りは難問ですが、自治体主体の多くの駅前開発が失敗に終わっている中で氏の判断が注目されます。

氏のトレンドレポート道27号で唯一考えが述べられています。

この駅前再開発では、最終の転出者率が92%になるので、6割以上の地権者が再開発ビルに入居するという再開発事業の前提が崩れてしまいます。

そのように事業を取り巻く環境が変化してきたのを受け、市のリスクを軽減するために、施設設計の見直しや民間事業者の資金とノウハウを活用する特定建築者制度の導入が検討されています。しかしどうもリスク回避ばかりに目が行って、肝心な部分がおざりになっているのではないかという気がしてなりません。

本当に重要なことは、駅前に活力を取り戻すことや地域交流の推進をいかに行なうかということです。

そのためには再開発ビルや駐車場の設計を見直すというハード部分だけではなく、駅前全体を網羅した個性と魅力ある仕掛けや集客力のある再開発ビルの実現という商業的戦略を重視したソフト部分に、もっと目を向ける必要があります。

そういうところを再度検討し、「にぎわい」と「うるおい」のある駅前空間を実現してほしいと思います。

単なる箱物で終わってはならないとの考えをお持ちのようで今後十分議論したいと思います。

以下の二つは今回選挙での公開質問に対する氏の回答で、大規模開発と自然環境問題への考えの一端が伺えます。

榎尾川ダム問題

氏は私たち榎尾川ダムの見直しを求める連絡会の公開質問に以下のように答えられました。

1) 榎尾川ダムについて見直しも含めて検討する。

理由:大雨で被害を受けた大畑地区、坪井町から強いダム建設の要望から取り組まれている事業ではありますが、自然環境に対する負荷の大きいダム事業以外に地域の防災防止効果が期待できる方法があれば再検討していきます。

2) 治水のあり方について

自然環境の保護に配慮しながら、大津川水系の保水・遊水機能を確保するための施設を整備し、水害に対して安全な土地利用や建築方式の採用を指導すると共に、洪水時の警戒避難態勢整備の取組みを推進していきます。

3) 自然環境について

榎尾山の地形・植生・気候に適応している動植物を守るには、その自然環境を保護する以外にないと考えています。

4) 榎尾川ダム事業について選挙公約に入れる予定はありますか。ない

理由:和泉市再生まちづくり11プランの中で、「都市環境を創造し和泉の文化力をアップさせます。豊かな歴史と文化の伝承」に含まれていると考えています。

5) ダム問題に取り組み、ダムではない他の方法を提唱している専門家の意見を聞く予定はありますか。ある

理由:適切な情報を入手して、的確な判断を下すのは当然です。

6) 市長としてダム予定地を視察されますか、する

理由:和泉市長が、和泉市内で行われる重要な事業を視察

も含めて熟知していることは当然であると考えています。以上、今までの市長とは異なった考えをお持ちのようであり、十分連携をとって対応したいと思います。

信太山の開発計画について

私も会員である信太の森 FAN クラブが行った北部地域公共施設整備事業についての公開質問状に氏は以下のように答えられました。

- 1) 信太山丘陵の自然をどのような認識されていますか
信太山丘陵は、多くのため池や無数の貧栄養湿地が点在する市街地近くに残された数少ない希少な動植物の生息の場であると共に、平地から台地にかけて古墳・史跡等が集中しており、和泉市の自然、文化、歴史の宝庫と認識しています。
- 2) 人工施設の建設が及ぼす自然への影響は
人間の適切な管理のもとと保全して行くことが、大事だと考えます。そのように考えると「大規模」な人工施設はそぐわないと判断します。
また、自然の中で生存している動植物は、人の手が加わることと反比例して、その生態系が壊れて、いずれは消滅してしまいます。
潜在自然植生を残した森や湿地帯を存続させることが、長期的な視野で自然環境を守ることに非常に重要なことです。
- 3) 私たちはこの地を「信太山里山自然公園」として活用を求めているが
自然の宝庫を活用するのは当然である。
- 4) スポーツ施設が本当に市民の声なら、市内の他の場所での実現や既存施設の改修、改善についての考えは
信太山丘陵にスポーツ施設を建設するのは、自衛隊の演習所内にある介入民有地を統合した土地の利用から発想されたものです。和泉市が持つ資源の有効利用という観点から、施設の新設・既存施設の改修・改善にも大局的、長期的な思想のもと取り組みたいと考えます。
- 5) 市民グループ等との話し合いは
市民運動団体や研究グループ、研究者などとの意見交換の場は当然持たせて頂きます。単なる「意見交換」の場ではなく、市民が参加する行政改革懇話会のような機関を設置し、その意見を練り上げて和泉市を形作っていきます。
また、ワークショップなどを行って、広く市民の意見を吸い上げる場も設けたいと考えます。
- 6) その他のご意見は
「地球にやさしく」などという表現がありますが、得てして自分たちに都合のいい使い方をすることがあります。人間も自然の一部であることを見つめ直す啓蒙活動は、行政にとっても非常に重要なことだと思います。開発一辺倒では無い、自然への深い造詣が見られます。大いに期待します。現在署名活動を行っています。ご協力を

お願いします。連絡先 信太の森FANクラブ
電話&FAX 0725-44-8404

田中康夫新党日本代表(元長野県知事)が榎尾川ダムを視察

田中康夫代表が今本博健(京大名誉教授、元淀川水系流域委員会委員長)の招きにより平成21年6月13日大阪府和泉市に建設中の榎尾川ダムを視察。当日は両名に加え、荻野芳彦(大阪府立大学名誉教授、元淀川水系流域委員会委員)、宮本博司(前淀川水系流域委員会委員長)、榎尾川ダムの見直しを求める連絡会(代表:榊原鉄次)の会員など総勢16名が参加。



榎尾川・牛滝川の合流点より要所、要所で下車しながら上流に向かって移動し、ダムサイトまで視察。視察後南部リージョンセンターでミーティング及び記者会見を実施。ミーティングには参加者以外に地元のダム推進グループの方約10人が飛び入り参加、議論が沸騰。

議論の内容は大凡以下の通り。

参加者の自己紹介後、ダム推進グループの方数名が意見を陳述。その内容は

平成7年の大雨で河川の増水、浸水で大変危険な目にあった。今まで何回も危険な目にあっている。

そのような中で住民の要望を受けたダム建設がようやく実現できる状況になった今、それらの状況を知らない人がどうしてこの計画に反対するのか

ダムなしに住民の命と暮らしが守れるのかというようなものであった。

議論の後、田中代表が以下の意見を述べた。

ダムは洪水を防ぐのに決して万能ではない。危険性は確かに少なくなる。しかしダムがあっても洪水が発生した例は多くあるし、ダムは出来るまでに時間がかかる。直ぐ明日に100ミリの大雨が降るかも知れない。そのような状況でダムに全てを任すのは果たして正し

